

雅で粋な三味線に挑戦

伝統芸能コース

三味線

目的

- 三味線という和楽器を通じて、伝統と文化を尊重する心を育てる。

効果

- 演奏や音色を楽しみながら、自ら動く姿勢や、日本らしさを味わう感性が身につく。

到達点

- 演奏発表の活動を通して、自分が感じた日本らしさを人に伝える達成感や集団活動の喜びを得る。



講師 木屋輝久次
きねや きくじ

略歴

三味線奏者
幼少の頃から日本舞踊を学び、その後、三味線奏者を志して研鑽を積む。1986年に輝久友会を設立。95年より奈良市文化芸術祭に参加、国際文化交流事業など国内外で活躍。97年より長谷寺奉納演奏。
ライオンズクラブ・ロータリークラブでの講演と演奏、病院のロビーコンサートなど、様々な場所で長唄の普及振興に力を注ぐ。社団法人長唄協会会員。



- 会場は、土足厳禁の場所を準備する。
- 正座をして演習する際は、座布団が必要。(イスでも可)

より発展的なワークショップを実施するために

- 社会科を受け入れ科目とし、日本史と合わせて学ぶ。
- 新しい曲に挑戦する。
- 長唄、歌舞伎、浄瑠璃など、三味線の演奏を聴きに行く。



事前学習

CDなどで三味線の練習曲を鑑賞する。

ワークショップの流れ (4日間1コマ/日)

稽古のあいさつの仕方、三味線の歴史、取り扱い方の説明

↓
1弦ずつ音を出す演習

↓
譜面の読み方の説明と、1音ずつ弾く演習

↓
楽譜を見ながら、講師の手本「荒城の月」を鑑賞

↓
運指や指摺りの効果的な使い方を確認し、演奏の演習

↓
「ひなまつり」の演奏の練習

↓
「荒城の月」を全員で合奏

事後学習

ミニ発表会を行う。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

みんなが一生懸命に取り組んで、数人は難しい技法を弾けるまでに上達した。日本独自の楽器に直接触れたことにより、日本の伝統文化を身近に感じてくれたのがよかった。また、あいさつの仕方や作法等を、素直に受け入れてくれた点も大きな成果だと思う。

先生の感想

伝統文化というものをすんなりと受け入れていた。うまく弾けると楽しくなって、やる気もわいてきた様子で、三味線の演奏に自信がついたという生徒もいた。楽器の習得だけでなく、礼儀作法も同時に学ぶことができるので、落ち着いた心の学習にもつながった。

生徒の感想

- ・三味線の出し方・仕舞い方も教えてもらった。こんなに弾けると思わなかったし、もっと練習がしたかった。これからも、いろんな目標に向かって、自信をもって挑戦したい。
- ・最初は難しかったが、練習しているうちに慣れてきて、「荒城の月」の最初の部分が楽譜を見なくても弾けるようになった時は、本当にうれしかった。
- ・集中力がついたと思う。日本の伝統的な楽器に触れられたのは、いい経験になった。